

令和6年第15回教育委員会会議録

1 日時

令和6年9月17日（火）15時00分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長：石橋正信

教育委員：町孝、原志津子、武部愛子、徳成晃隆、沖田由香

事 務 局：福田教育次長、木下理事

中尾総務部長、峯川職員部長、吉安教育環境部長、浦塚教育支援部長、齊藤指導部長

平川教育政策課長、茅野生涯学習課長、若松職員課長、坂崎教職員第1課長、氷室教育環境課長、石橋課長（高校総体担当）、松吉健康教育課長、石橋学校企画課長

森本学校企画課主任指導主事

4 会議事項

(1) 付議事項

付議案第45号 福岡市学校運営協議会規則案

付議案第46号 附属機関委員の人事について

(2) 臨時代理報告事項

臨時代理報告第3号 事務局等職員の人事について

臨時代理報告第4号 事務局等職員の人事について

臨時代理報告第5号 附属機関委員の人事について

(3) 協議・報告事項

協議・報告ア 令和6年度全国高等学校総合体育大会について

協議・報告イ 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

協議・報告ウ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について

協議・報告エ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について

協議・報告オ 令和7年度福岡市立学校教員採用候補者選考試験実施状況について

5 開会

教育長開会を宣告 15時00分

付議案第46号、臨時代理報告第3号から第5号まで及び協議・報告又は人事に関する案件のため、協議・報告又はエは訴訟に関する案件のため、議決により非公開とされた。

6 付議事項

▼付議案第45号 福岡市学校運営協議会規則案について

平川課長より説明

《原案どおり可決》

〔質疑等〕

(町委員)

○ コミュニティスクールを既に始めている春日市などは規則を制定しているのか。

(平川課長)

○ 学校運営協議会の設置に関しては、教育委員会規則で定めることとなっているので、コミュニティスクールをしている市町村は全て規則を制定している。

(町委員)

○ 条文はほぼ似たようなものか。

(平川課長)

○ 春日市も含め他の政令市も参考にした上で、さらに文部科学省が規則のひな型を示しているので、そういったものを組み合わせて作成している。

▼付議案第46号 附属機関委員の人事について

氷室課長より説明

《原案どおり可決》

7 臨時代理報告事項

▼臨時代理報告第3号 事務局等職員の人事について

▼臨時代理報告第4号 事務局等職員の人事について

若松課長より説明

▼臨時代理報告第5号 附属機関委員の人事について

茅野課長より説明

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 令和6年度全国高等学校総合体育大会について

石橋課長（高校総体担当）より説明

〔質疑等〕

（町委員）

- 私も、50年ほど前に2回ほど出たことがあるが、未だに覚えている。大観衆の中で競技ができるというのは、インターハイくらいしかない。そういう意味では、競技を支えてくださる先生方、役員の方の苦労はすごかったと思う。感謝申し上げます。

（石橋教育長）

- 実行委員会のみなさんは、直前には寝不足になりながらも、何とか無事に問題なくやりとげることができた。オリンピックと重なってしまい、新聞等の報道がほとんどなかったことが残念であるが、本当に良い大会をやっていた。

▼協議・報告イ 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

石橋学校企画課長より説明

〔質疑等〕

（町委員）

- 成績に一喜一憂する必要はないと思う。ただ、正直にいうと、小学校の点数は、全国20政令指定都市の中で今回4位、中学校は11位であった。一般的には公開されていないのでよいが、とても良い成績だったと思っている。問題は、小学校の4位の成績が、4年後の中学校3年生のときにどうなっているかということ、時系列で追っていけるようなものを作っておくといふと思う。そうでなければ、毎年一喜一憂することよりも、やはり、この学年のこういう部分は良かったが、これが中学校になってこういうふうにならなくなった、少し下がったなど、教育委員会として実績をもって把握して、指導していけるような態勢にしていった方がよいと思う。事務局も成績をお持ちだったので安心した。ちなみに、今回、九州では断トツで1位であった。これは、ある意味で教育委員会の成績表なので、一喜一憂する必要はないというもの、成績が良いに越したことはない。ここから本題だが、資料1ページの悉皆調査について、「質問調査C B T」とあるが、これはいつ頃からこのようになったのか。

（森本主事）

- 令和5年度からである。

（石橋教育長）

- 参考までに、資料3ページ、中学校の国語をみていただくと、全国が58.1で、福岡市は58であたかも0.1下回っているかのようだが、地方で出すときは小数点以下を四捨五入されており、実際は全部上回っている。同程度といいながら小学校

も中学校も全部上回っている。また、4番目とおっしゃったが、全部小数点以下を切り捨てるものだから、この順番の中で、4番目で3チーム、4チームあり、実はその中にも順位がある。しかし、各都市自分のところがそのグループの中の最高位をいっている。したがって、今回を一言で総括すると、全部上回ったといえる。

(町委員)

- 予行演習などをしているところを真似する必要はないが、個人的な希望としては、小学校のときのレベルがそのまま中学校に上がって、私学の良いところに行ってしまうと点数が下がる部分もあるかもしれないが、全体的な傾向としてそのまま残ってほしい。やはり、成績の良い都市にみんな集まってくるので、教育というのは本当に大変だと思う。どこの家庭でも、子ども成績が良いところに住みたいというのが親心なので、そういう意味でも教育は大事である。また、質問紙の中で気になったのが、コンピューターの教え方の部分で、資料19ページ、成果と課題のところにも弱いところが出ているが、そういったところはもう一度しっかりやっていただきたいということと、また、子どもたちのアンケートを取られているが、生活の部分で、これはとても良いし、成績うんぬんよりも、ここの生活態度の自己有用感が一番大事だと思うので、ここの部分は大事にしていいただいて、良いところをもっと伸ばせるようにやっていただければと思う。成績の部分の一喜一憂は別にしても、自分たちで取り組んで、自分たちで主体的にできるという力を伸ばしてあげるところに、教育委員会として力を入れていけるように頑張っていきたい。

(徳成委員)

- 全体的な数値の結果が良かったのでほっとした。それぞれの学校で様々な教育課題がある中で、一年間本当に努力をされた結果が出てきたのは喜ばしいことである。2点ほどお尋ねするが、1点目は資料17ページ、ICTを活用した学習状況について、全体的には全国平均と同程度であるが、5つのうちの真ん中の3項目、いわゆる主体的・対話的で深い学びの学習場面におけるICTの活用が記載されている部分は、各設問で小学校がマイナス20ポイントに近い結果になっている。中学校と比較するとICTの活用がまだ不十分なのか。対して、資料19ページ、成果と課題、4つ目のところでは、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校が多いことがわかる」と総括されているわけだが、この授業改善が進んでいるかいないかの検証はどういうところでされているのか、先ほどの活用がうまくできていないということと、授業改善ができていると評価された辺りの関係をどのように捉えられているのか。もう1点は、同じところの2つ目、「学校は楽しい」に関して、小中いずれも肯定的回答が増え続けてきているのは喜ばしいことであるし、

良い傾向だと思う。不登校児童生徒はかなり増加傾向にあり、授業についていけない子どもたちもまだまだたくさんいる現実を考えると、数値的に全国平均より高いのは評価できるものの、これは曖昧な質問であり、子どもたちもなんとなく回答する傾向がなきにしもあらずと考える。学級経営や授業改善が進んだ結果、子どもたちの満足度に繋がったという捉え方ができるのかどうか教えていただきたい。

(石橋学校企画課長)

- まず、授業改善を何で評価しているかについては、1学期に各学校で授業改善推進プランというものを作成いただき、我々も提出いただいたプランを確認しているところで、2学期に、学力に関する指導主事の学校訪問の際に、その改善プランを校長とあるいは学力担当の先生方と共有しながら協議しているので、その学校がどのような取り組みをしているのかはそこで見ることはできる。また、ICTを活用できていないということについては、ICTを使った協働的な学びのところは、なかなかうまくいかず、どうしてもタブレットをもって横の人と話すといったレベルでやっているところもあります。例えばもっと遠隔でやるといった授業がまだできていないところもあり、様々な活用の仕方を我々としても出していかなければ、学校に伝わっていかないと思っているところで、ICTを使って子どもがどう考えていくのか、どう表現していくのか、そういったところの研究が必要と考えている。また、「学校は楽しい」については、委員がおっしゃるとおり、なんとなく回答しているところもあるとは思っている。前向きに捉えておきたいとは思っているが、やはり学級が楽しい、授業が楽しいというところを、授業評価する際にこの指標も取りつつ、学校に行ったら先生が教えてくれるから楽しいだとか、友達と学べるから楽しいだとかそういった根拠のある指標も取れたら良いかなとは考えているところである。

(徳成委員)

- ICTを活用した授業の先進モデル校の授業公開等はやっているか。

(石橋学校企画課長)

- ICTを活用した授業改善モデル校を指定しており、令和4年度、5年度とさせていただいて、今年度はその事例を各学校に報告書等でお示しさせていただいているところで、それをもとに2学期、これから本番の授業改善を、それぞれの学校が授業研究していくところである。

(徳成委員)

- モデル校が作った実践が全校に配られて、先生方も代表が集まって研修会に参加しているということか。

(石橋学校企画課長)

- そのとおりである。1つの事例であるので学校によって実践内容はいろいろあると思うが。

(原委員)

- 問題形式で記述式のところについては、小学校が少し振るわないのと、無解答率も記述式のところが高いところについて、今後、中学校の国語で書くところなどで出るのが、ICTなどとコラボしてどんどん伸ばしていただきたい。国語の記述式というところは、これから社会に出るに当たって基本になるというか、思考などを整理するときに大事な要素になると思うので、そこについて気になった。

(石橋学校企画課長)

- ICTを活用することも、子どもたちが紙に書いたり読んだり話したりすることも大事なので、バランスをしっかりと、ICTばかりでなく、それぞれの良さを生かしながらバランスよく授業構成していかなければならないと考えている。

(石橋教育長)

- 書くことも大事であるし、ICTも活用しなければならない。今度の総合教育会議のテーマで、そういった学びの改革とデータ駆動型、教育センターなど今話題になっているところの資料を作成しているので、また協議いただければと思う。

(町委員)

- 議会ではこの調査をやめろという会派の方もいらっしゃる。私は反対だが、子どもたちの在り様だとか、先生が評価してくださっているだとかいう部分を子どもたちが正直に書いてくれているところのデータを取るというのは大事であるし、子どもの成長過程でこれをやめたらどうかという方が結構いらしかったので驚いた。お尋ねするが、東京都は10万人程度が受けているが、やめているところはあるのか。

(石橋学校企画課長)

- 公立は全て受けている。

(武部委員)

- 資料4ページ、5ページの教科ごとの正答について、小学校は明らかによくできていて、中学校になると当然山が少し左に寄っているが、数学の山の形が他とだいぶ違って、できる子がこれだけ少ないのかと思ったところである。来年度教科書が変わって明らかに難しくなるが、どうなるのか、この山がどのようになっているかが気になった。福岡市民の子どもたちに培われている前向きなというか、明るい回答に救われている部分もある反面、それでも8割、9割ではない子どもたちのことも十分考えながらやっていただけると良いと思う。

(石橋学校企画課長)

- 数学は二極化していたが、良い方向に移っている状況にある。来年度教科書が変わって、委員がおっしゃるとおりまた二極化する可能性もあるが、個に寄り添った丁寧な指導を心掛けていきたい。

▼協議・報告ウ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について

▼協議・報告エ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について
松吉課長より説明

▼協議・報告オ 令和7年度福岡市立学校教員採用候補者選考試験実施状況について
坂崎課長より説明

9 閉会

教育長閉会を宣告 16時18分